

那珂市議会 産業建設常任委員会記録

招集日時 令和7年7月25日（金）臨時会終了後

招集場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 寺門 勲 副委員長 小宅 清史
委員 大和田和男 委員 笹島 猛
委員 遠藤 実 委員 福田耕四郎

欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 木野 広宣 事務局長 会沢 義範
次長 萩野谷智通 次長補佐 三田寺裕臣

会議に付した事件

（１）調査事項について

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前11時29分）

委員長 臨時会終了後、大変お疲れさまでございます。ただいまから産業建設常任委員会を開会いたします。

ご連絡をいたします。会議は公開しており、傍聴可能といたします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくかマナーモードにご配慮をお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名でございます。欠席委員はございません。定足数に達しておりますので、これより産業建設常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席をしております。

挨拶は省略させていただきます。

これより議事に入ります。

調査事項、道の駅の運営についての調査、検証についてを議題といたします。

前回の委員会において、勝山氏に調査、分析をしていただきたい案件について、考えておくことになっておりましたが、調査分析していただきたい案件がございましたら、ご発言をお願いいたします。

副委員長 前回、勝山先生にいろいろ収支の採算見込みを見ていただいたかと思うんですけれども、若干先生のほうに話が伝わってなかった部分もあったかと思うんですね。そういったところをやっぱこっちが提示しないと先生のほうも分からない部分もあるかと思うので、実際にこっちから資料を持って分析していただきっていうふうなやり方をする

ことも必要なかなというふうに思います。基本的には4月に調査事項の内容を提示させていただいているかと思うんですけども、その中から皆さんが、ここについてちょっと先生に諮ってみたいというようなところがあれば、そこを参考に出していただければというふうに思うんですけども。どうでしょうか。

遠藤委員 逆に、この間の勝山先生の調査というのは、正副委員長としてどのレベルでの調査をお願いした結果だったんですか。

副委員長 基本的にはこの間は執行部が出してきた収支計画というものが、貸借対照表までいかなんですけど、そういう経理的に見て妥当なものなのかどうかというのを見て下さいというようなお願いでした。

遠藤委員 それであれば、今おっしゃった委員会としての調査事項の提案で、幾つものたくさんありますよね、これね。これを例えば我々常任委員会で調査をしていくのだとすれば、この中で、勝山先生のテリトリー、中小企業診断士が判断できるというか、調査できる項目を絞り込んでお願いするということにはどうですか。

笹島委員 勝山先生も執行部も、あくまで予想なんですよね。予想は予想なんでね。周りの市町村、もう実績が出てるんでね。それを何か比較検討できないかなと思うんですけども。それ勝山先生お願いできるかどうか分からないんですけども、より具体的なものだと思うんですけどね、もちろん売上げとかですね、そういうものを中心としたね。いつも何か予想ばっかりの話なんでね。こういう予想が難しいと思うんですよね。

副委員長 他の施設の分析やってもあまり意味がないかなって思っているんです。結局やり方が違うじゃないですか。だから全く同じっていうところはないと思うので。それでもう1個いいですか。恐らくほかの道の駅の収支とかそういったものは多分執行部はこっちに出してないですけど持っているとは思うんですよね。そういったものを、執行部から出してもらうという方法もあるかもしれないです。

笹島委員 小宅副委員長ね、どこも一緒なんですよ。本当金太郎あめ切ってるようなもので、何も変わってないんですよね。今言ってた沖縄県にできたテーマパークみたいな、ああいう飛び抜けた感じもないわけでしょう。ああいうものをつくって併設してくればね、本当にすばらしいってなるだろうけども、しょせん直売所、レストラン、フードコート、それから子供の遊び場とか案内所とかトイレとか、どこも一緒なんですよね。違うの何かっていうと、今言ってた周りの景色ですよね。風光明媚か、それとも田んぼの中につくるかっていうその違いなんでね。だからもう何ひとつないわけですから。その実績がやっぱり実績を生むんですよね。ですから、私が知りたいのは、その周りのほうの絶対教えてくれないと思うんですよね。なかなか秘密だと思うんですよね。わざわざうちは赤字ですっていうふうになかなか言えないもんですから、売上げ出すけど利益ってなかなか、小宅副委員長が言っていましたけど、結構ごまかしてる部分あると思うんですよね。ですからまともに出してないと思うんですよね。ですから、できるだけその近い線

で、我々が知りたいのはそこなんですよね。自分のためにもなるんですよね。

副委員長 おっしゃる意味は分かるんですけど、それ勝山先生に頼むことじゃなくて、私たちが見ればいいものですよ。今日は勝山先生に聞きたいことをお願いしたいんです。

笹島委員 勝山先生に頼めば楽かなと思って。

副委員長 もう1点なんですけど、勝山先生にやっていただいた資料の結論としてっていうのが1番最後にあったかと思うんですけども、結論としては事業計画の数値面では妥当であるが地域の特産物等の開発を含む施設の経営システムの構築をどうするかが課題として残されるとかって書いてあるので、中小企業診断士で経理だけではないと思うんで勝山先生が見るような、こういったものをもうちょっと深く聞いてみるっていう方法もあるのかなというふうには思います。

笹島委員 私もそこなんです。経理面の数字面っていくらでもごまかしますから、今言った中小企業診断士としていろんなところ見てもらっていろんなことを見聞を広めてって、よく知ってらっしゃるんで、その周りのことっていうか将来性と、このようにやったらいいんじゃないかとか。だからそういうこともやっぱり我々参考になることを聞きたいんですね。それでお願いします。

大和田委員 そういうことだとすると調査事項を見てるんですけども、前回勝山先生も、整合性はあるけど、これからの経営戦略とかによるものだよと、頑張ればいいんじゃないのみたいな、いうところだったと思うんですよ。そうなってくると頑張りというか具合を調べるとしたら、三セクの準備会で開催されてるのかな、そういうのは。三セクのそういったところの公表なんかできないのかな。そういったところも見てもらいながら、その三セクの在り方、また三セクの先ほどの話じゃないけど、どっかやってるところあるじゃない三セクでやって運営してるところもあると思うんでそういった比較をしたり、道の駅に限らずっていうのも中小企業診断士ができるのか分からないんですけど、あと頑張ればっていうんですけどやっぱりこう今まで語ろう会なんかやってみると出荷量とか、そういった何か農業センサスとかそんな中からも出せるんじゃないかななんて思って、それで売上げの見込みが立つとかっていうのも、あと近隣の直売所の今の売上げとかも表にして出していただくというところかなというのと、やっぱり気になるのはみんな多分頑張った先で、市の財政に状況にどう関わるかってできるの、中小企業診断士。例えばケースバイケースの話も含めてこの売上げだったら、こういう負担がリスクがありますが三セクになってるから三セクのリスクも考えたり、そういう将来設計も何かケースバイケースでデータで出せるんじゃないかな、そこら辺をお願いできたらいいのかなと思います。

笹島委員 どこの道の駅でも第三セクターっていうのは1番これがキーポイントだと思うんですよ。これが失敗するか成功するかの要なんですね。今言ったメンバーですよ。どこでもメンバー一緒なんです、市役所が株大体50%。それから持分。銀行、それから

商工会、JAとか、その他もろもろでしょ、これやってるから失敗してるんですよ。要するにそのみんな責任持たないし。もちろん人ごとだからね。ですからそれ以外にその他以外に民間のすぐれた人たちの会社とか、そういう人たちを入れなければ絶対失敗すると思うんだよね。そういうところはやっぱり調査してほしいんですね本来は、逆に言えば。これ本当に失敗しているのは第三セクターなんですよ。今言ってた指定管理者の中で今度雇うわけでしょう。今言ってたその指定管理者っていうのは、市のほうで年間これでやってくれということで来るわけでしょ、統括的に。そうなんです、第三セクターそう、だからそこがやっぱり1番のマイナス点なんです。逆に言えば、なぜかっていうとそういう意味でメンバーが悪いんですよだから。気が利いたメンバーを入れてもらわないと、今言ってたのも伸びもしない下がる一方だということが全国的に見られてるんですよ。ですから我々は、そこを注視してチェックしていかないけない。1番要がそうなんだから、何をやろうか幾ら何を市役所がやるわけじゃないから、第三セクターで今言ってたね、そういうことです。

遠藤委員　せっかく先生お願いするので、そもそもの数字からちょっと別の角度で検証できればと思うのは、来場者数、この出し方もいま1度検証していただきたいんですよ。何に基づいてどうなのか。これは当然説明を受けています。前面道路の交通量、あと立ち寄り率、乗車率、それで掛け合わせて何万人ということなるんだけど、本当にこの数字の計算の仕方でいいのかは、また別途先生の見方で計算してほしい。僕らが基本計画で示された、率の中でも相当幅があるんですよ。それぞれに幅があるんでどの数値をとってそうなのか、それが適切なのかっていうのはちょっと、これはまた別の検証をしたほうがいいんだろうと思っているので、入場者数の検証、それから単価の検証、これも1,005円とかっていうなってるけど、一応執行部からはほかの近隣の道の駅の平均単価を勘案して設定したという答弁はもらってますが、本当にそうなのか。それでもって、売上げが9.6億円って出てくるわけだから、まず基本的なこの数字の根拠の検証をちょっとお願いできればなということと、基本計画の中でも収支計画でそれぞれ、道の駅の中でも直売所、観光物産、フードホール、カフェ、製造直売といろいろと部門が分かれているんだけど、その中で、売上げがそれぞれ出て、粗利益が出て、営業利益も数字出てるんですが、本当は、それぞれのこの売上げをどう上げるかっていうのが1番の僕は主眼だと思ってるけれど、せめてこの売上げだとすれば、例えば直売所が計画でいうと4億8,000万円、観光物産が1億9,000万円とかフードホールが1億2,000万円とか出てるんだけど、このそれぞれの分野で売上げ高が粗利益はこれで本当にいいのか。一応この売上げが上がったとして、粗利率がこれでいいのかはちょっともう少し中小企業診断士の目から検証してご提示いただきたいと思います。ただ、本当はこの売上げ、どう上げるかが市民としては心配で、5億円の野菜を売れるかどうかっていうそこらがまずそもそもが根本なんだけど、ただそこは中小企業診断士に調べてもらいたいってあるんであ

ればね、そりゃそうだけどちょっとそれは難しいかもしれないが、場合によっては、これもちっと行政が把握していないかもしれないけど、那珂市の農家の方がどれぐらい、どの量をどこに今出荷しているのか。これ調べられるかな。あくまで農業センサスでね、マクロでしかないと思うんだが、これ本当は多分細かく見ていく必要が僕はあると思うんだけどね。現状の那珂市の農業がどうなってるのかっていうのはもう少し詳しく調べたほうがいいんだろうなという感じはしてますね。取りあえず以上です。

笹島委員 今遠藤委員が言ってたね、要するに予想は予想なんですよね。9億7,000万円が、これ誰でも俺でもたてられるんですよ。粗利益1億幾らでもそんなすぐできるんですね。だから、現実的に周りがあるわけでしょ。周りがあって、周りがどれだけ売上げというのは大体把握してますもんね。それより上がるわけがあるかどうか。突発的な何か魅力があれば上がるかもしれないけども、平凡に同じもの売ってて同じような人が来て同じって、何があるかなっていうことも調べてもらいたいですね、逆に言えばね。周りがやっぱり今度は周りも一生懸命になりますよね。逆に言えば食うか食われるかですよ、正直言って周りがもう那珂市が潰れるか常陸太田市が潰れるか常陸大宮市が潰れるか、そのくらい厳しいと思うんです。現実には、そういう本当に現実的なことを聞きたいんですよ。もう予想の話はいいよ、誰でもできるから。

副委員長 そうすると、近隣の道の駅についての資料はこっちで集めないで先生も判断のしようがないと思うんですね。先生にそれを集めてこいっていうのは無理だと思うので。

笹島委員 できるだけ集めてほしいのこっちで。市役所から集めてくれないかな。

福田委員 あまりよそ様のそれは言う必要ないよ。常陸太田市が潰れるとか、そういうことよりは那珂市全体の、とんがりはっと、あるいはJ A直売所、そういうところと競合するわけですよ。そうするとその農家の納入者、いわゆる納める農家、こういうことが1番心配かなと。それに伴って、価格、これは恐らく、J Aにしても価格的には例えば、ナスにしたら、価格を今度の道の駅が100グラム幾ら、J Aは幾らっていうふうに差別はできないと思う。そういう面をしっかりとやっていかないと難しいんじゃないかな。

笹島委員が、常陸太田市が潰れるとか常陸大宮市が潰れるとか、そういうよそ様のことに、そういう言葉は駄目だよ。そういうことまで触れる必要ないですから。

笹島委員 ごめんなさい、ちょっと現実的な話なんだよね。

福田委員 それは傍聴してる人もいるし、よそ様のそういう進退に関わるようなことは言わないほうがいいよ、これは駄目だよ。

笹島委員 本当に厳しいもんですよっていうことを知ってほしいんですよ、世間の人でも、市役所の人にも。本当にそんな生易しい問題じゃないと思います。

福田委員 厳しいっていうことはみんな痛感している。

遠藤委員 そこのところを先生が示していただいたのがハフモデルなんです。そういう話して、ハフモデルっていうのは、消費者が特定の店舗を選ぶ確率を計算するためのモ

デルで消費者の購買行動を予測するためのツールとして非常に有効だと書いてある。消費者がどれだけ近くて、どれだけ魅力的かをもとに消費者の行動を予測するモデルがもう既にあるんだと、計算する方法があるんだと。だから、そこらの定量的に、店舗がどの程度集客力を持つかを評価できるというふうな仕組みがあるから、こういうモデルがあるっていうのを示してもらっただけなんで、笹島委員おっしゃったとおり、もう正直僕もいろんな毎日例えば、報告会やるっていうと、菅谷の人からしたらもしくは五台の人からしたら、あんな遠くまでわざわざ買いに行かぬえよっていう声も多いわけ。だってうちにはかわねやがあってカスミ、ジャスコもあるし、スーパーがたくさんあるからそれを飛び越えて菅谷はなかなか行かないよって毎日言われてる。五台の人からも言われてる。さらに直売所もあり、とんがりはっと、芳野直売所、JAもある。だからそういったところで、やっぱりこのハフモデルからすると、どういうふうに今回の道の駅がとらえられるのか。だから、今回道の駅ってあれじゃないですか、計画的に言うと6割は地元の人に来てもらう予定なんでしょう、6割が。土日は混むだろうけど平日が閑散とするから赤字になるっていう今の道の駅だから、平日でもやっぱりスーパーもあるけどあそこに来てもらえる何か強力な魅力、それは品ぞろえなのか、単価なのかサービスなのか分からないけれど、それが戦略的にないと、やっぱり距離に負けちゃうわけだから、まずハフモデルを使って、今回の道の駅の今の基本計画で、どれぐらいの魅力を評価できるのかっていうのは、専門的な目線からね、ちょっと調べてもらいたいなという感じするんですよ。

委員長 いろいろなご意見をいただきましてありがとうございました。それぞれのご意見を正副委員長で精査しまして、今後勝山先生に依頼していきたいと思います、よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ声あり）

委員長 そういった形で精査してまいります。

福田委員 できるだけ資料を多く提供してあげて、そうじゃないと駄目なんだ、この間のようなことになっちゃうから。

委員長 ありがとうございます。

本日の案件は全て終了いたしました。以上で産業建設常任委員会を閉会いたします。
ご苦労さまでした。

閉会（午前11時53分）

令和7年8月21日

那珂市議会 産業建設常任委員会委員長 寺門 勲